

令和4年度

## 第1回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日時：令和4年7月22日（金）午後2時～3時30分

場所：鳥取市役所 本庁舎7階 議会全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、田中節哉委員、青木博之委員、飯田浩一委員、赤嶋三千男委員、秋山光行委員、甲田紫乃委員、山本武志委員、綱本信治委員、升田弘法委員、太田章太郎委員、中野ゆかり委員、坂本朋子委員、

欠席 石塚康裕委員、川夏博志委員、谷田一富委員、小坂祐司委員、中村 暁委員、齋川 清委員

オブザーバー 鳥取県地域づくり推進部東部地域振興事務所 山下大治 副所長  
事務局 鳥取市企画推進部次長兼政策企画課長 戸田昭弘、同課課長補佐 平田政志、同課係長 古網有希、岩美町企画財政課長 大西正彦、若桜町企画政策課長 谷本 剛、智頭町企画課長 酒本和昌、八頭町企画課長 岡崎好美、香美町企画課長 川戸英明

説明者 鳥取市市民生活部次長兼地域振興課長 漆原利明  
鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 渡邊大輔  
鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課長 平井宏和  
鳥取市農林水産部農政企画課長 山川泰成  
鳥取市農林水産部林務水産課長 山口真二  
鳥取市都市整備部交通政策課課長 小森毅彦

### 1 開会

### 2 あいさつ

下田委員長あいさつ

### 3 議事

#### (1) 因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業の進捗状況について〈事務局説明〉

・・・資料1、資料1-1、当日配布資料

(資料1、資料1-1、当日配布資料について事務局説明)

<委員>

資料1-1のNo.16「麒麟獅子舞をいかした圏域活性化事業」について、この麒麟獅子舞を継承するためには、やっぱり人がしっかりいないといけないと思います。

例えば、智頭町にあります智頭農林高等学校にも麒麟獅子舞をする部活がありますが、例えば、高校2年生になったら、交流としてベトナムに行けるよとか、ちゃんと確固とした事業に取り組む、国外でも国内でもいいですが、どこかに行って交流しようっていうのを、設定していれば、麒麟獅子舞の部活に、その魅力として入ってもらえるのかなと思います。

なので、ここ3年間どこにも行けなかった人がいたりするのではなく、ちゃんとした位置付けをすることはできないのかな、してもらいたいなという思いがあって、この交流ということが必要だと提案させていただきました。

<委員>

資料1-1 No.56「森のようちえん運営・活用事業」について、圏域の他の町から通った場合も、それぞれの町が負担するってことになるんだろうと思いますが、鳥取と智頭だけじゃなく他の圏域から通った場合も、園に補助などがあるといいだろうなと思いました。

<委員>

資料1-1 No.57「麒麟のまち交流スポーツ大会事業」について、新温泉町の広報誌7月号に、麒麟のまちマラソン大会と載っておりまして、参加者が1100人おったと書いてありました。これは令和4年度の実績になるのか、それとも、この事業とは関係ないでしょうか。

<事務局>

また確認して、ご報告をさせていただきたいと思います。

→本事業では、麒麟のまち圏域に参加対象を広げることにより、スポーツを通じた地域間の交流を図ることとしています。

「新温泉町麒麟獅子マラソン大会」は、基本的に参加者の地域を限定せず全国から募集しており、本事業には位置付けておりません。本年度のみ3km部門は圏域住民と限定しましたが、参加者数を調整するためです。

<委員>

公共交通の利用促進として、「ノルデ運動」をしておられると思います。公共交通も大変な状況だと思いますが、これはいい運動だなと思います。反響はいかがでしょうか。

<説明者 鳥取市交通政策課長>

「ノルデ運動」は、例年実施しておりまして、ノーマイカー通勤運動を構成町と連携して実施しております。

ただ、鳥取県東部、あるいは兵庫県北部につきましては、公共交通の便数が限られており、通勤時間にあった便がないということもあります。このため、「ノルデ運動」に参加するのも難しい環境にいらっしゃる企業さん等ございまして、なかなか広がりという点では、限定

的というところもございます。

今年4月に、JR西日本が輸送密度2000人未満の線区に対する収支計画と収支状況というのを報告されました。それで、鳥取県でも全県で、公共交通「乗ってe c o h (行こう)！」県民運動というのを展開しております、この麒麟のまち圏域も一緒になって取り組もうということでさせていただいております。「ノルデ運動」につきましては、例年9月から3月までの期間ですが、今年度は2ヶ月前倒しをさせていただいて、7月1日から展開しているところがございます。

まだ募集を開始したところですけども、例年に比べて参加したいというお問い合わせも多くいただいております。

実施期間の毎週金曜日を強化日として、毎週金曜日に路線バスでノルデカードを運転手さんに提示していただきますと、運賃が半額になるという特典をさせていただいておりますが、今年につきましては若桜鉄道さんも御協力いただき、若桜鉄道も毎週金曜日はカードを提示していただきますと、運賃半額になるという広がりも見せております。

最近はコロナの関係で自粛をしておりましたが、協賛店舗を募集しまして、その店舗でカードを提示していただきますと、ワンドリンクサービスとか、トッピングを追加したり、というような特典も様々用意させていただき、なるべくノルデ運動に参加していただく方を増やしていこうということで、取組を進めさせていただいたところがございます。

<委員>

資料1-1のNo.70「智頭線・因美線利用促進事業」ですが、郡家駅までの間に、例えば若葉台駅とか駅を作ったらものすごく便利になって、利用が増えるんじゃないかと思いますが、そういう計画はないでしょうか。

<説明者 鳥取市交通政策課長>

若葉台駅等につきましては、以前からそういったお声も伺っておりますが、ニーズと投資経費との割合もあり、なかなかその実現に至っていないという状況がございます。

JRさんも、昨今の経営状況の中で、駅舎のシンプル化を進めておられ、コスト削減をシビアに行っておられますので、なかなか新しい駅を設置するという事は厳しい状況なのかなと思っております。

## **(2) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの策定について・・・資料2**

(資料2について、事務局説明)

<委員長>

これまでは、できあがったビジョンの進行管理をやってきておりますが、次は新しいビジョンを作ることとなります。たたき台ができてしまうと、そればかりに目がいてそれがいいのか悪いのかという評価になってしまうので、たたき台を作る前に委員のみなさんから、次のビジョンに向けての思いをお願いします。

<委員>

先日、住民の団体の会議の中で、役場の方と住民と話し合う機会があり、連携中枢都市圏ビジョンに関わる施策の内容についての説明を受けました。住民の肌感覚からすると、連携中枢都市圏の目的や効果が、一般の住民には届いてないのかなという感じを受けました。住民として、こういう恩恵がありますよとか、こういう効果がありますよとか、そういうところがもう少しこうじわじわと浸透していったらいいかなと思います。

現在の連携中枢都市圏ビジョンが策定された際に、裏表カラーのチラシが配布されていたと思いますが、それを見ただけでは、なかなかわかりにくい部分もあると思いました。チラシなどだけではなくて、役場の方とか、私たち、参加している人たちが、口コミで広げていけるような活動が今後できるとより良くなるのかなと感じました。

<委員>

大学の学生たちが卒業研究や授業の一環で、いろんなところに出ていく際には、公共交通機関を使いますが、ちょっとわかりづらいところがあるみたいで、大学と家の往復のような形になっていることが多いと感じます。

でも、今日の資料1-1を見ると、いろんな取組をされているというのが、よくわかりますので、もう少し公共交通など、若い学生などにも発信していただけるような取組を含めていただけたらと思います。

<委員>

現在の連携中枢都市圏ビジョンの資料ですけれども、統計情報が並んでいたり、実施事業が羅列されているような形にはなっていますが、どういった目的を持ってその事業をやっているって、大項目みたいなものがちょっと見えにくいと感じております。ぜひ住民の皆様に関わりやすいビジョンにさせていただけたらと思います。

<委員>

今のユニバーサルデザインの時代で、今日の資料1-1の状況調書っていうのは、字が小さくて非常に見にくいので、何とかしてほしいです。

<委員>

たくさん90の素晴らしい事業をしていて、成果も上がっているんですが、成果や課題が住民に伝わってないような気がします。これはこんな成果が出ているということを住民に、わかりやすく広報していただけると大変ありがたいと思います。

<委員>

若い人に向かったものであってほしいと思います。項目でいうとNo.31の「若者定着促進事業」での高校生の企業見学会の実施だとか、そういったものは長い時間はかかっても、将来的に地域の資産になると思うので、そういった目線で若い人に向かった計画であってほしいと思っています。

JRの赤字路線の発表があった後の会議で、公共交通の部分で全く説明がないのはどうかと思う。医療も公共交通も大事なんですけど、大事な部分は、何かしら説明してほしいと

思います。

<委員>

コロナが始まって3年経ち、今後どういう時代になっていくのか、その先が見通せないこの時期に、本当に第2期ビジョンの策定を進めていいのだろうかと思います。策定を先延ばしにして、今年度から来年度にかけては、今までのビジョンを見直す、次期のたたき台をしっかりと練る時間にして、策定は今じゃなくてもいいのではないかと思います。

<委員>

新しいビジョンについては、ICTの利活用の方向性をもう少し強く打ち出してもらえたらというふうに思っております。圏域間でネットワークをいかして共通課題を解決していくという場合は、デジタル化ということが非常に大事な一つの手段になってくると思っております。田舎に住んでいても、都会と同じような利便性の高いサービスが受けられるというようなことが、デジタル化である程度実現できてくるだろうと思います。

そうなれば、いわゆる合理化問題や若者の流出の抑止力にもなっていくと思います。

<委員>

私ども、バス事業なのですが、やはりコロナ禍の影響で、例えば鳥取-広島間、鳥取-福岡間または姫路なんかも便数が減っています。だんだん鳥取に魅力がなくなっているのかなと思ったり、よそからも来てくれる人がだんだん少なくなっているのかなというのは、身に染みております。

やはり麒麟のまち圏域で一番ネックになっているのは、交通が通じてないということ。特にバス路線は、ゆめぐりエクスプレスも、令和2年で廃止になってしまいましたし、よくテレビで路線バスの旅と言いますが、繋がってないんです。そういうのがこの麒麟のまち連携でちょっと残念なところがあるなと思っております。

<委員>

私どもも地域商社として、しっかりとこの麒麟のまちのPRを県外に向けて発信していきたいと思っております。あとは個人的な話ですけども、社会人と大学生の子が県外に出ておりますけど、社会人の子は大学のあるまちで就職しました。学生に帰ってきたいふるさと思えるようなまちにしていけるよう、ビジョンの策定、我々も頑張りたいと思っております。

<委員>

コロナ禍が長引いて、社会、経済が大きく変容しています。リモートなど新しい仕組みや今までなかったものが急激に変わってきているところで、そこに、住民の皆様や事業者の皆様、いろんな関わっている皆さんが着眼をして変わっていかないと置いて行かれるような状況だろうと思っております。

先ほどICTの話もありましたけど、我々も、鳥取市さんと一緒になって、スマートシティの構築ということで、これから協議会を立ち上げていく方向で議論を進めています。いろんなことが新しい技術によって効率化して、今までなかった価値が生まれてきます。そうい

ったことを率先してやっている自治体や地域は、全国にたくさんありますし、そういったところを勉強して、練れるところは練っていち早く展開していくことが次のビジョンの大事な部分なのかなと思っております。

それから、やはり地域で産業が活性化して発展していかないと、県外に出られた方や学生さんは帰ってきません。特に理系の人材は、帰ってきても研究する場所、思うように力を発揮する場所がないという状況です。せつかく高校までしっかりと育てて、学力もつけて、県外の大学に出て勉強をして、そういった人材が県外に流れていくのは、非常に残念なことだと思います。産業とかそういった新しいチャレンジをするビジネスというものを、どんどん生み出していけるような仕組みを盛り込んだビジョンにしていくべきだと思います。このコロナの中で非常に疲弊して、先々が読めない時代の中で、どういった産業づくりをしていくかということ盛り込んでいただけたらと思います。

<委員>

第1期の連携中枢都市圏ビジョンですが、鳥取市が中核市になって、そして、近隣の町で、連携中枢都市圏ビジョンに基づいてまちづくりを進めていこうということだったと思います。この第1期の計画の中で、圏域の一体感であったり、アイデンティティであったりとかがどのように形成されてきたのかなと考えています。

第2期ビジョンの策定にあたりましては、どういう圏域にしたいのか、または、この圏域で何を目指していくかという部分を打ち出していただけたらと思います。

事業の寄せ集めではなく、メリハリのある計画にさせていただいて、交通アクセスですとか、情報インフラですとか、或いは観光、学術、そして医療とか、そういった部分について、しっかり事業の作りこみをお願いしたいと思います。

<委員長>

委員の皆さんから、次期計画ビジョンに向けていろいろご意見をいただきました。せつかくですから、説明がほとんど鳥取市ばかりですので、岩美町さんほか町の課長さんから次期ビジョンに向けての思い等がございましたらお願いします。

<岩美町 企画財政課長>

この麒麟のまち圏域をどういった圏域にしていきたいかという目標をしっかりと話し合っ  
て、第2期のビジョンの策定に向かいたいと思います。

<若桜町 企画政策課長>

交通の関係は重点に考えていきたいと思います。よろしくをお願いします。

<智頭町 企画課長>

行政の作った計画書というのは住民の皆様にはわかりづらいものだと思います。なるべく課長会議等でわかりやすいビジョンになるように努力していきたいと思っております。

<八頭町 企画課長>

住民の皆様の肌感覚としてちょっと近いものではないかなというようなご意見もいただきましたので、我々もより身近になるものになるような話し合いをしていきたいと思っ

おります。

<香美町 企画課長>

香美町は、最後に、この連携中枢都市圏に入らせていただきましたが、昨年の住民アンケート調査を見ますと、香美町だけがこのアンケート結果が違うのかなと思っております。今後につきましては、同じ連携中枢都市圏の構成町としまして、皆さんと同じ方向に向かって進めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<委員長>

オブザーバーの山下さんにご意見をいただければと思います

<オブザーバー：鳥取県東部地域振興事務所副所長>

次期ビジョンの策定にあたっては、コロナ禍での経験を踏まえて、アフターコロナを意識したビジョンづくりで、事業についても単純に継続・更新ではなくて、見直していくことが必要なのではないかと思います。

また、公共交通機関の関係です。JR西日本さんから、赤字路線の関係で提言があった話は、まさにこの圏域に関わる問題になっております。鳥取県も、来週には、関係者との意見交換の場を設けますが、この圏域の皆さん、せっかく住民目線での意見を集約できる場ではないかと思いますので、次期のビジョンを策定するにあたって、1つのテーマに入れていただければと思います。やっぱり圏域の中で生活するにしても、観光するにしても、スムーズに動いていくということを考える中で、インフラ整備は不可欠なものであろうと考えております。

コロナと鉄道というところ、その辺を念頭に入れた議論をされたらどうだろうかと思えます。

<委員長>

では、事務局にお願いですが、ただいま皆さんからの意見、いろいろあったと思います。これからのビジョン策定に向けて、それぞれの所管があると思いますが、これらの意見を必ず目に留まるようにしていただいて、策定にあたっては、見直すべきところは見直す、継続すべきところは継続するということで、単なる事業を寄せ集めて作られるというふうなイメージを持たれないように、たたき台を作っていただけたらと思います。

<事務局>

ありがとうございました。皆様の方から、たくさんのご意見を頂戴しました。広報や情報発信の部分が足りてなかったのかなという意見が多かったと考えております。これにつきましては、圏域の企画担当課長で構成する会議で練って行って、圏域市町で連携しながら、住民の皆様方に情報が届くよう考えていきたいと思えます。また、ユニバーサルデザインのごことがございましたが、配慮していきたいと思えますのでどうぞよろしくお願いいたします。

JRの件なども、こういった場で議論していけるような、或いは今後のビジョン策定にあたって、取り入れていけるよう議論をしていけたらと思っております。

コロナの収束を見通せない中で、次期ビジョンの策定を見送ってもいいんじゃないかというご意見も頂戴いただきましたが、たたき台や案を十分にご覧いただきながら、今年度中に策定させていただければと思っております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

若者定住ということもございました。圏域から出て行かれた学生が、なかなか圏域に帰って来られない。若いうちから麒麟のまち圏域を好きになっていただく、魅力を感じていただく、そういった事業を考えていくことも必要ではないかと思っております。

これから、たたき台を作っていく皆様にご意見をいただきたいと思っております。ありがとうございます。

#### **4 その他（なし）**

#### **5 閉会**